高齢者施設の利用者と山の芋の種芋を植える さん=丹波篠山市福住で



山の芋グリーンカーテン つる性植物の山の芋を窓辺に 設置したネットやひもにはわせて育てることで、広がった 葉が日射しを遮り、 室内の温 度上昇を防いでくれる。夏は 涼しく、秋は山の芋の収穫 一石二鳥で楽しめる。

農作業や若者との交流 | 機能、コミュニケーショ | をもたらすのかを研究す | 学大学院医学研究科の論 高齢者の意欲、精神 |ン能力にどのような影響|る。調査方法は、京都大 文を参考に考えた。

流がどのような効果をもたらすのかを調べている。同校そばの介護老人福祉施設「やまゆりの里」 身)は課題研究の一環で、農福連携・園芸療法の観点から、高齢者にとって農作業や高校生との交

篠山東雲高校3年生でフード・インスティテュート類型を選択している

さん(篠山中出

やままゆ

ij の 里さでん

高齢者と交流し

施設に通って交流。その都度、利用者にアンケートを取ったり、施設職員へ聞き取りをしたりして の利用者を被験者に、山の芋グリーンカーテン作りを通して、収穫期にあたる11月上旬まで数度、

やってみたいと思いまし 作成。事前アンケート たか」「農業交流をする は、「東雲高校との農業 前アンケートと、作業を たは参加してみたい・ 交流があると聞き、あな を見る事後アンケートを ような変化があったのか 終えた後は気持ちにどの 持ちの状態などを探る事 身体的·精神的

さんの研究を
|ミュニケーションを図っ
|たデータを集めて、意義

と意気込んでい

2

2024年5月26日 丹波新聞

作業、交流する前の気 度がどのように変わった。さを覚えた。山の芋の にしている施設職員に、 告する予定。 め、来年1月に予定して のかも聞き取る。 いる課題研究発表会で報 利用者の表情や言動、態 肢から答えるもの。さら に「はい」「いいえ」で などの設問に3つの選択 して作業できましたか」|た。 熱心に作業に励んで 持ち的に、無理なく集中 加できたか」「身体や気 は、「作業にどれくらい参 答える。事後アンケート しみですか」などの設問 校生やほかの利用者との な不安はありますか」 これらのデータをまと には、日頃から生活を共 | 「40歳になる孫も東雲高 コミュニケーションは楽 農業交流を通じて、高 初回の16日は、 |利用者さんともっとコ|いきたい。しっかりとし|きたい| は笑んでいた。 楽しみに待ちたい」とほ し、茂ってくれることを たちの取り組みに懐かし 校出身なので、学生さん さん (89) = 辻=は、 ませ、親睦を深めてい の種芋を植えた。 ちとプランターに山の芋 諭の計4人が、利用者た 同類型顧問の サポートしようと、 カーテンが立派に成長 いた利用者の スメートの 作業を通して会話を弾 さん (狭間中出身) さんは、「次回は | て良好な関係性を築いて | ある研究、発表にしてい

高齢者施設の利用者と山の芋の種芋を植える永井さん=丹波篠山市福住で



山の芋グリーンカーテン つる性植物の山の芋を窓辺に 設置したネットやひもにはわせて育てることで、広がった 葉が日射しを遮り、 室内の温 度上昇を防いでくれる。夏は 涼しく、秋は山の芋の収穫 一石二鳥で楽しめる。

やまゆりの里で東雲高・永井さん 高齢者と交流し

篠山東雲高校3年生でフード・インスティテュート類型を選択している永井凉太さん(篠山中出

の利用者を被験者に、山の芋グリーンカーテン作りを通して、収穫期にあたる11月上旬まで数度、 流がどのような効果をもたらすのかを調べている。同校そばの介護老人福祉施設「やまゆりの里」 身)は課題研究の一環で、農福連携・園芸療法の観点から、高齢者にとって農作業や高校生との交 施設に通って交流。その都度、利用者にアンケートを取ったり、施設職員へ聞き取りをしたりして 農作業や若者との交流 | 機能、コミュニケーショ | をもたらすのかを研究す | 学大学院医学研究科の論 高齢者の意欲、精神一ン能力にどのような影響一る。調査方法は、京都大 文を参考に考えた。

やってみたいと思いまし 作成。事前アンケート たか」「農業交流をする たは参加してみたい・ 交流があると聞き、あな は、「東雲高校との農業 前アンケートと、作業を 持ちの状態などを探る事 を見る事後アンケートを ような変化があったのか 終えた後は気持ちにどの 身体的·精神的

度がどのように変わった にしている施設職員に、 のかも聞き取る。 利用者の表情や言動、態 肢から答えるもの。さら 加できたか」「身体や気 は、「作業にどれくらい参 などの設問に3つの選択 して作業できましたか」|た。 熱心に作業に励んで 持ち的に、無理なく集中 答える。事後アンケート に「はい」「いいえ」で しみですか」などの設問 校生やほかの利用者との な不安はありますか」 これらのデータをまと には、日頃から生活を共 | 「40歳になる孫も東雲高 コミュニケーションは楽 農業交流を通じて、高 サポートしようと、 さを覚えた。山の芋の たちの取り組みに懐かし 校出身なので、学生さん さん (8) = 辻=は、 ませ、親睦を深めてい の種芋を植えた。 ちとプランターに山の芋 諭の計4人が、利用者た 悟さん (狭間中出身) カーテンが立派に成長 いた利用者の津田千代子 同類型顧問の平山悠理教 スメートの粟野謙心さん 作業を通して会話を弾

め、来年1月に予定して 告する予定。 いる課題研究発表会で報 楽しみに待ちたい」とほ し、茂ってくれることを ほ笑んでいた。

作業、交流する前の気

んと、永井さんの研究を一ミュニケーションを図っ一たデータを集めて、意義 永井さんは、「次回は

初回の16日は、永井さ | 利用者さんともっとコ | いきたい。 しっかりとし | きたい | | て良好な関係性を築いて | ある研究、発表にしてい る。 一と意気込んでい